



日本百名山 登山日記



歩みを止めなければ、いずれ頂に辿り着く、そんな山日記です

vol.34 燧ヶ岳(日本百名山 42/100), 会津駒ヶ岳(日本百名山 43/100)

日本百名山は登山難易度や時期を見定めながら全国各地を巡っていますが、まだ足を踏み入っていない空白地帯があります。その場所は、福島県、新潟県、群馬県の三県にまたがる山域です。

登山や自然散策が好きな方はピンとくると思いますが、ここは童謡・夏の思い出「夏がくれば思い出す 遙かな尾瀬 遠い空」の尾瀬です。

実際には、尾瀬を取り囲むように福島から新潟方面の山域が私にとっての未踏の地となっています。これらの山域には、アルプスの1day登山に匹敵する体力勝負の山もありますが、登山の難易度的には初級から中級レベルとなります。

ではなぜ、未踏の地なのか？実は、これらの地域は車で行くには道が悪くとにかく遠い。しかしながら、新幹線や飛行機で行くには中途半端、登山口は山奥にありどうしても車に頼らざるを得ません。自宅からの車移動で言えば片道15時間、山形県近辺の山々は時間的には片道16時間と少し遠いですが、高速道路移動がほとんどで、しかも市街地から近いので運転は楽、また福岡空港から直行便が飛んでいる北海道や東北（仙台空港や岩手花巻空港）の山の方が気楽に行く事が出来ます。

そんな場所だからこそ、日数が必要と言う事で、お盆休みを利用してやっと行くことが出来ました。但し、以前のコラムにも書きましたが、この地域は北関東に住んでいた時によく溪流釣りに行っていた場所なので土地勘はあり、懐かしい風景を楽しんだ山行でもありました。



会津駒ヶ岳の山頂手前から見る駒ノ小屋と燧ヶ岳（右奥の双耳峰）

さて、今回登った燧ヶ岳と会津駒ヶ岳を紹介します。

燧ヶ岳（標高2,346m）は至仏山と並び尾瀬を代表する山で、東北地方の最高峰でもあります。

最高点の柴安嶮（しばやすぐら）をはじめ、俎嶮（まないたぐら）、ミノブチ岳、赤ナグレ岳、御池岳の5つのピークがある火山となります。

深田久弥は、尾瀬沼からこの燧ヶ岳を無くしたら、尾瀬は平凡な一小湖に化してしまうだろうと言い、燧ヶ岳の存在感を称えています。

また、会津駒ヶ岳（標高2,133m）は尾瀬の北の玄関口である福島県桧枝岐村の西方に位置しています。山頂部は天国とも称される広大な湿原が広がり、数多の高山植物が湿原を彩ります。

「私が初めてこの山を親しく望んだのは、尾瀬の燧ヶ岳の頂上からであった。北にあたって長い山稜を持った山が見える。一頭地を抜いた峻抜な山の形には見えないが、その尾根の長いおだやかな山容が私を魅惑した。中略、頂上は私が今までに得た多くの頂上の中でも、最もすばらしい一つであった。」

深田久弥 著書 日本百名山より、原文まま 抜粋



出典:ヤママップ地図

では、今回の山行についてです。

今回も天候による自由度を最優先し、車中泊を主とした計画としました。但し、直前に運良く山荘が予約できたため、3泊4日のうち1日だけはゆっくりと布団で寝ることが出来ました。

さて、初日は一気に福島県の尾瀬（御池登山口）を目指します。ルートは関東経由と新潟経由の二択ですが、お盆時期の関西、中京、関東の渋滞の中に突入する勇気は無いので、新潟経由を選択、山陽道～舞鶴若狭道～北陸道～関越道経由で向かう事にしました。

午前2時に自宅を出発、いつものルートなので気楽で、予定通り14時には新潟県上越市に到着です。

さて、ここで異変が！車内はエアコンが効いて涼しいはずですが、なんだか身体が暑いのです。もしかすると、流行りの病で熱が出たのかとも思いましたが、どうやらそうではなく、身体の右半分だけが暑いのです。どうも外気の影響のようで、たまたまラジオをつけていると、本日の新潟県はフェーン現象で軒並み39℃を超える高温でした。

ちなみに、39℃を超える気温がどんなものかと思い、近くのパーキングエリアに駐車し外に出てみましたが、呼吸するのが厳しいくらいの暑さで、すぐに車内に戻りました。当然ながらアスファルトの上なので間違いなく40度以上、こんな状況では、外で活動するのは自殺行為です。

2023年8月9日 13時50分現在（10分毎更新）

順位	地点名	気温・時刻		
1	三条（新潟県）	39.8℃ 13:23	5	村上（新潟県） 39.2℃ 13:41
2	三国（福井県）	39.7℃ 13:12	5	中条（新潟県） 39.2℃ 13:26
3	寺泊（新潟県）	39.6℃ 12:10	5	高田（新潟県） 39.2℃ 11:06
4	松浜（新潟県）	39.5℃ 13:06	8	新潟（新潟県） 39.1℃ 13:32

気象庁：アメダスの気温データの抜粋、福井県三国を除きすべて新潟県です

さて、北陸道を進み、長岡JCTから関越道に入り新潟県魚沼市の小出インターチェンジで高速を降ります。ここでは、温泉に入り汗を流し（と言っても暑いので、またすぐに汗です）、近所のコンビニで翌日と翌々日の登山の食料と飲料水を購入します。

ここからは、国道352号を奥只見湖（銀山湖）に向かいます。この路線は、途中からとにかく狭い道を延々と進むのですが、この日は時間帯も良かったのか、道幅が狭くなってからの約50km超の区間、ほとんど対向車には出会わず、若い頃に釣りをしていた銀山湖を懐かしみながらのんびりとドライブしました。ちなみにこの区間の半分以上はauの電波は入らないので、とにかく事故だけは起こさないように細心の注意を払いました。

18時少し過ぎ、無事に尾瀬の北の玄関口である御池の駐車場に到着です。こここの標高は約1,500mあることから、気温も22℃と過ごしやすい状況でしたが、とにかくアブが多く車の外に出たくない。すぐに晩ご飯を食べ、車中泊の準備をし就寝します。今日は移動時間が長く疲れたので、爆睡でした（夜中に目が覚めた時に、獣の呻き声が聞こえたような気がしたのは、気のせいだろうか？）。翌日は、午前4時に起床、この時の気温は17℃で少し肌寒いくらいでしたが、夏の登山としては、まずまずの気温です。

湯を沸かして朝食を摂り、準備をして午前5時13分、登山を開始します。登山口は、駐車場の端にあるのですが、嫌な張り紙が。事前情報でも知っていたのですが、ここ最近、尾瀬は熊の目撃情報が多いだけでなく、実際に人が襲われて大怪我をしています。

という事で、いつものように先行者が行ったのを見計らったスタートです。ただ、この作戦は失敗、5分後くらいには先行者二人に追いついてしまい（テント泊装備の方でした）、そこからは熊鈴

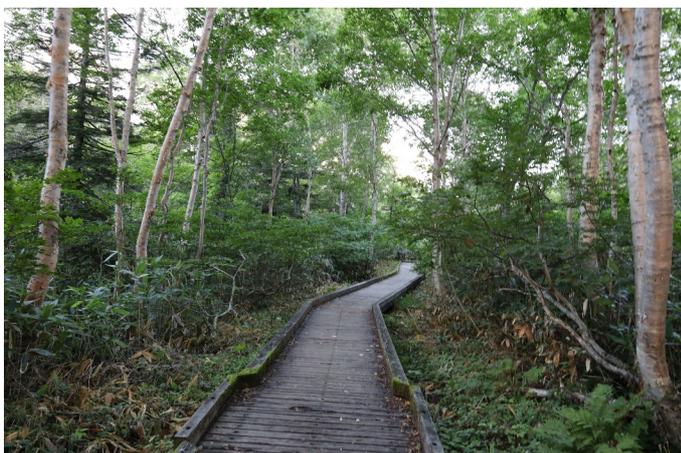
を鳴らしながらのいつもの登山です。当然ながら、熊撃退スプレーも装備済みです。
燧ヶ岳は火山の山であり、非常に歩きにくく急登もあるのですが、少し行くと平坦な湿地帯、そしてまた急登の繰り返しになります。さすが尾瀬、湿地帯は木道が整備され、この時期はキンコウカが美しく、湿地帯は黄色の絨毯と化します。



車中泊した駐車場 多くの方はバスで尾瀬沼へ



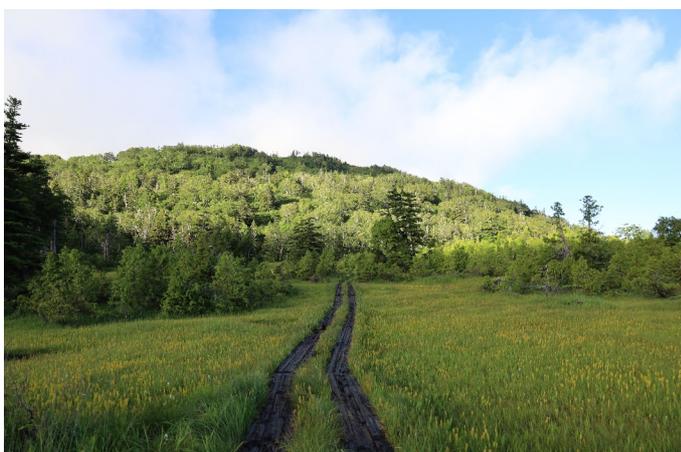
登山口 ここからスタートします



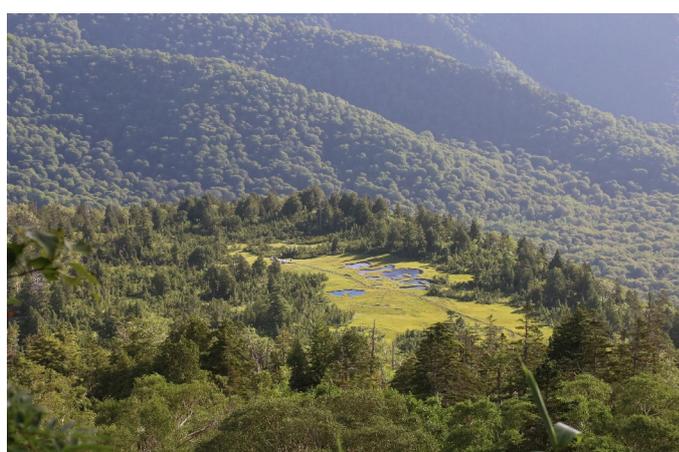
最初は趣のある木道歩き



いきなり火山の山らしいゴロゴロ石の登山道



急登を越えると湿原（広沢田代）



広沢田代を見下ろす

ただ、ここで恐れていたことが。熊沢田代の木道上に過去にも見たことのある物体が、しかも新鮮そのものです。そう、今しがたされたであろう熊の糞です。

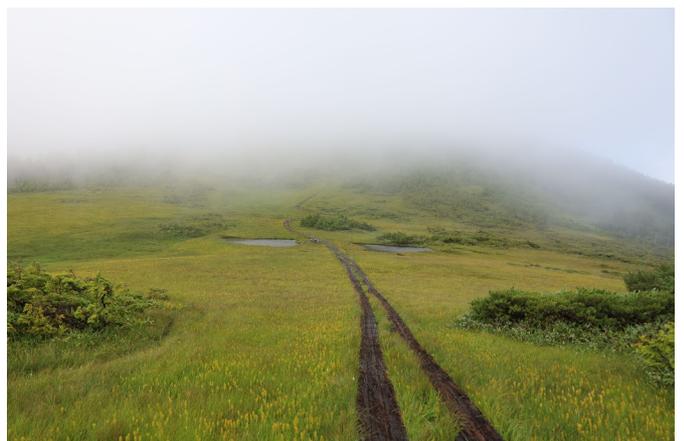


燧ヶ岳 登山データ：距離 8.7km 累積標高上り 1,024m 登山区分 日帰り（ヤママップのデータを転記）

しかも、この時は風速10m/s以上のやや強い風と辺り一面の霧（ガス）で視界が悪い状況であり、熊と出会う御膳立てが出来上がった状況でした。しかしながら、周囲には熊は見当たらず（熊は息を潜めて隠れていることが多々ある）、また風が強いためか獣匂もしなかったことから、とりあえず山頂を目指して慎重に進むことにしました。



なんとも言えない登山道を抜けるとまた湿原



熊沢田代で熊の糞を発見、緊張が走る

7時40分、最小のピークである俎嵩に到着です。そこはガスと立っているのもやっとの強風の頂きであり、あまりの寒さに岩陰でハードシェルを着こみます。

そして、天候回復を期待し、食事タイムとしました。ここでの食事タイム30分が後に私に幸運を呼び込みます。



湿原を抜けるとまたまた急登



俎嵩に到着 ガスで何も見えません

食事後は、百名山のピークとなる紫安嶺を目指します。と言っても、水平距離で約300m、50m程度の上下降はありますがすぐに到着です。

この頃になると、風もやや穏やかになってきており、ガスが一気に晴れてきました。すると目の前には、見たかった尾瀬ヶ原が広がります。

この景色を見るために登ってきたとも言える美しい風景です。あいにく正面に見えるはずの至仏山にはガスがかかっていたましたが、日本百名山である平ヶ岳や日光白根山、男体山などが目を楽しませてくれました。

誰も居ないこともあり、私としては非常に長い時間、約40分間を山頂で過ごしてしまいました。これも、俎嵩での30分間があったからこそです。そうでなければ、この山頂もガスで真っ白だったので、尾瀬ヶ原も見る事が出来ずにそそくさと下山していたと思います。

次に尾瀬ヶ原を見る時は、至仏山に登った時、今度は夏ではなく残雪時期か草紅葉の頃に来たいと思ったほどの素晴らしい景色でした。



福島県最高峰の燧ヶ岳（紫安嶺）の山頂標



足元には尾瀬ヶ原が広がります



行きは全容が見えなかった俎嵩、帰路上り返す



尾瀬沼も見えます



日本百名山 平ヶ岳が目の前です



俎嵩から見る紫安嵩と尾瀬ヶ原



ガスが晴れた熊沢田代と奥には会津駒ヶ岳



俎嵩を振り返って、美しい風景です

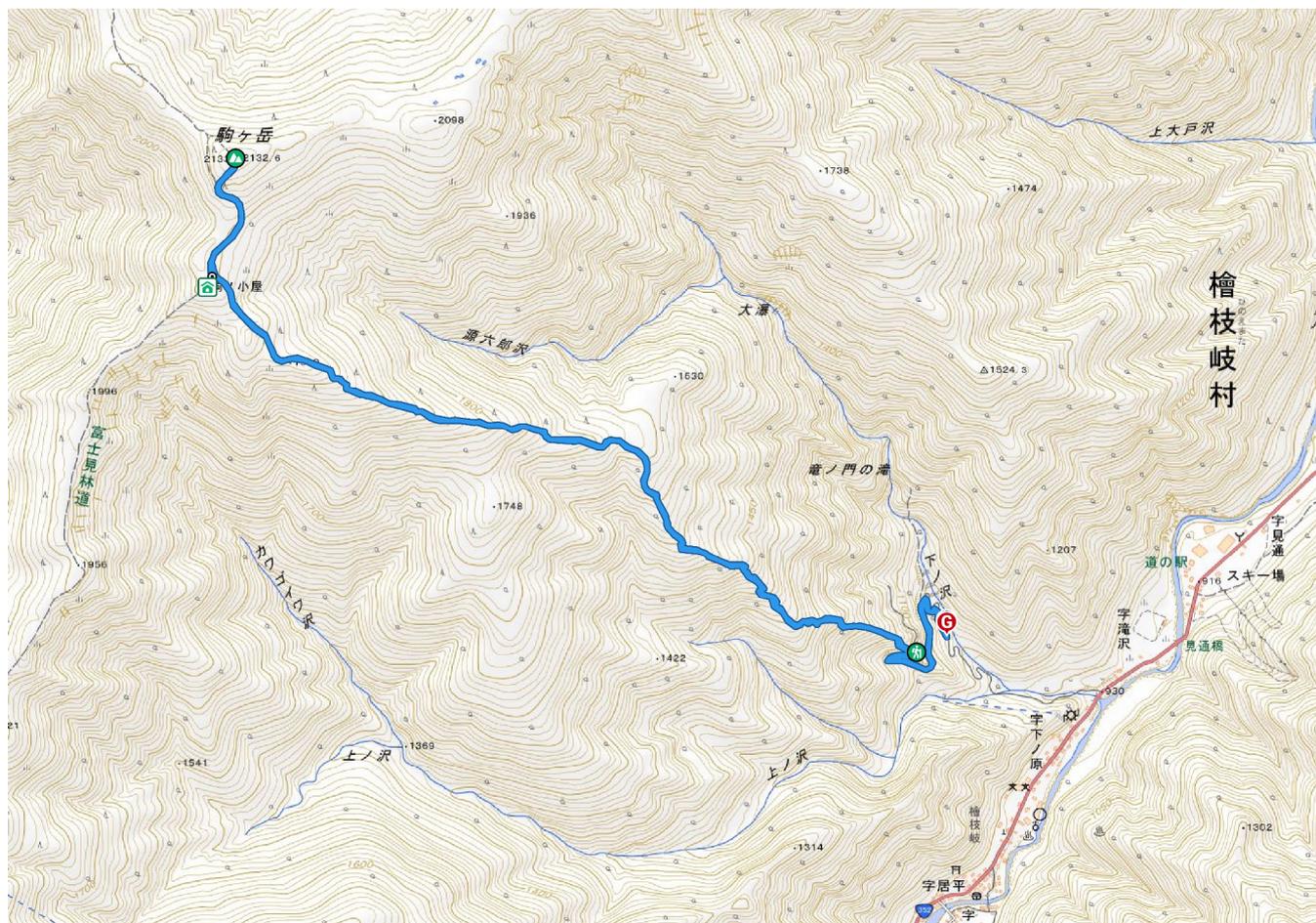
さて、午前中に下山してしまったので、本日の宿である山荘に向かうには早い事から桧枝岐村を散策します。物産館を見て回ったり食事をしたり、また翌日に登る会津駒ヶ岳の駐車場を確認、ついでに以前に釣りをしていた溪流を見て回ったり、忙しく時間を潰しました。

翌日も午前4時に起床、山荘が用意してくれたおにぎりでお腹を満たし、会津駒ヶ岳の登山口に向かいます。山荘からは約15分と近いし、前日の夕方は駐車場に車が5台しかなかったのが気楽に行っていたのですが、これが大誤算。なんといくつもある駐車場はすでに満車、林道沿いに多くが路上駐車

する始末、しかもそのスペースも無いのか上から車が戻ってきます。ざっと見で、100台は下らない車の数です。致し方ないので、登山口より約1km離れた場所に駐車する事にしました。

恐るべし地上の楽園 会津駒ヶ岳、しかもお盆休み期間中。

駐車場で準備を済ませ、午前5時24分、いよいよスタートです。と言っても人が多い。登山口からいきなり急登が続くのですが、人の多さで数珠繋ぎ。抜くも、抜かれるも大変なので、周囲の人とペースを合わせながら、登る事にしました。

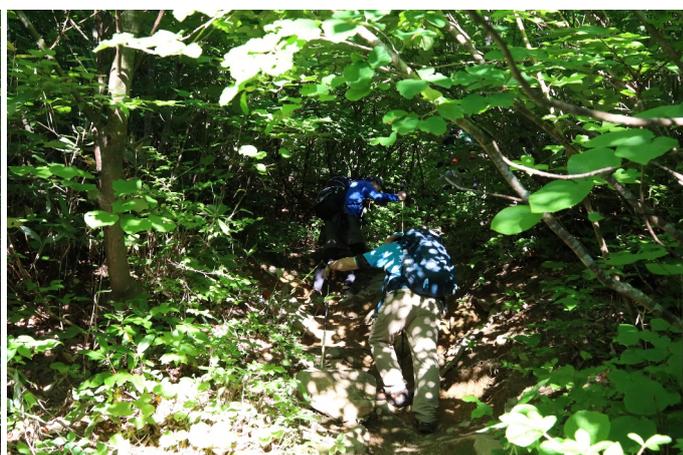


会津駒ヶ岳 登山データ：距離 10.2km 累積標高上り 1,177m 登山区分 日帰り (ヤママップのデータを転記)

途中では、福島県や新潟県の方、また宮城県や岩手県、遠くは愛知県の方などと会話を楽しみながら歩き、これはこれで良いものでした。



登山口からいきなりの急な階段です

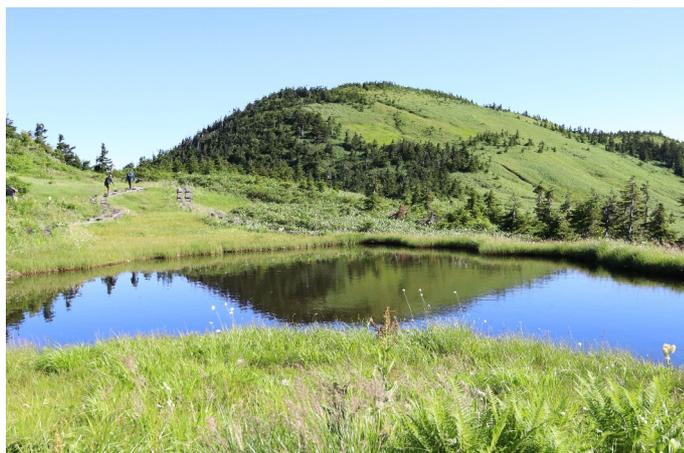


他の登山者と数珠繋ぎで登ります

約2時間の樹林帯の急登を登りきると、そこは楽園でした。と言っても、この地域の山は山頂付近が平坦で湿地帯が多いのが特徴なので、特段、驚くほどでもないのですが、さすが豪雪地帯の山、森林限界が低い事から気軽に美しい風景を見ることが出来るのは素晴らしいと思います。会津駒ヶ岳の駒の小屋付近は、まるでアルプスの少女ハイジを思わせるような景観です。本日は天気も良く、空の青と草の緑、そして昨日登った燧ヶ岳をはじめ多くの山を見渡すことができ、大満足の登山となりました。ちなみに、山頂は低木に覆われ眺望はありません。但し、ここでも登山者が多かったことから、すぐに下山を開始。下山中も上ってくる多くの登山者とのスライドに気を使い、上りの時間と変わらないくらい下山に時間がかかってしまいました。と言っても、10時30分には車に辿り着いたので、そこからは温泉に行き、またまた15時間かけて（帰路は福井県で車中泊）帰宅しました。



急登を越えると、美しい風景が



駒の小屋から山頂までは緩やかに登ります



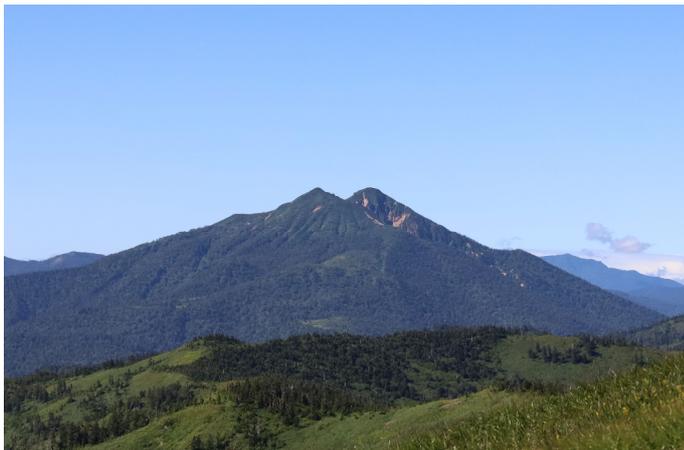
会津駒ヶ岳の山頂



穏やかな風景です



ずっとここに居たい気分になさしてくれます



昨日登った燧ヶ岳が目の前です



続々と登ってくる登山者、景色を堪能されています



チングルマの綿毛

今回の山行は、登山より移動に疲れたものでしたが、昔懐かしい風景を見ることができたことで満足感が非常に高かったです。

ただ、この山域にはまだまだ百名山が残っています。正直、また運転してここまで来るのは負担が大きいのですが、平ヶ岳および越後駒ヶ岳の登山口は、ここに来るルート上に位置しています。移動の気を紛らわす意味でも、次は夏ではなく、違う季節に来て食事や温泉も含めて楽しめたらと思っています。